

# JICAシニア海外ボランティア「景観保存」

## タイ国 第2の都市チェンマイへの赴任、2年間の記録 第5回 チェンマイ景観データベースの構築の提案

### 活動内容

#### 2. 景観データの収集（景観データベース構築の提案）

活動範囲については、JICAシニアボランティアの任期2年間（実質は活動計画決定後の1年6か月）に限られるため、県全域を対象とするのではなく、チェンマイ都市総合計画区域（429km<sup>2</sup>）に限定して行った。また、本活動の推進のために通常の業務経費に加え、JICA現地研究費を申請し、景観保存だけの研究費として20万バーツ（約60万円）の支給を受け、円滑に研究活動を実行することが出来た。

#### JICAシニア海外ボランティア現地研究（概略）

(1)研究テーマ：チェンマイ都市総合計画区域における景観データベースの構築

(2)研究の概要：都市総合計画は土地利用の見地と法的性格上、都市景観としての切り口からの施策としてはあまり言及されてなく、多様化する建築物等の形態をはじめ、歴史遺産との共存や町並み保全、自然環境保全等、今後のより良い景観保全という見地から現在のチェンマイの実情を把握し今後のまちづくりに生かす必要があると考えた。また、チェンマイ県の将来における土木・都市計画事務所の役割として、景観に関する把握をした上で将来における景観指針、いわゆる「チェンマイ県景観ガイドプラン」を示すことが必要であり、今回の活動をその策定に向けたアクションの一つとして、チェンマイ都市総合計画区域での景観データの収集及び分析を行い、多くの人々に活用できる景観データベースの構築を目指した活動とした。

(3)研究の主体及び協力者：JICA\_SV「景観保存」及び赴任事務所を主体とし、テサバン・ナコン・チェンマイ都市計画課、チェンマイ大学、メージョー大学、シラム建築家協会ランナー部会（北タイ地域会）、チェンマイ都市開発研究財団等まちづくり市民団体、その他在チェンマイの多くの方々の協力を得て行った。特に、チェンマイ大学職員のナウィット氏は京都大学大学院（布野研）の留学経験があり、通訳や学生アルバイトへの指示を含め絶大な助力を戴いた。



チェンマイ景観データベース実施会議

(4)研究目的：①チェンマイ県都市総合計画区域内でのあらゆる景観要素毎の景観データの収集を行い、景観保全に関する施策のための基礎データづくり。②収集した景観データを分類し、地域毎や道路、河川、公共施設、町並み、自然、緑化等の景観要素として把握、検索しやすくするためデータベース化を図る。③作成した景観データベースを都市計画、景観保全に生かすだけでなく、環境保全や観光事業、景観教育等にも活用できるよう広く一般公開する。

(5)期待される効果：①本研究によりチェンマイ県都市総合計画区域内での現在の時点で景観を広く把握することが出来、保全すべき風景・景観の発掘と共に景観の記録的役割を担う。②チェンマイ県都市総合計画区域内の景観把握を行うことにより、今後チェンマイ県全体の景観把握についてのテストケースとなる。③土木・都市計画局としての景観保全に関する積極的取り組みとして、チェンマイ県のみならずタイの景観保全に関する指針づくりについてのアクションを誘発。④研究プロセスにおいて地元大学や関連行政機関、民間団体及び住民等の協力を得ることにより、広く景観に関する意見を聞くことができる。

(6)研究の詳細：

#### ①景観要素としての分類と詳細の検討

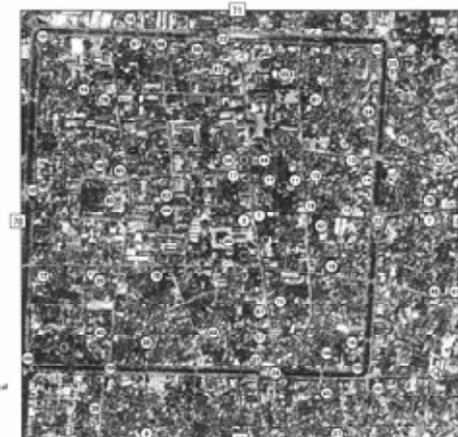
- 道路景観（車歩道、街路樹、交差点、電柱、看板等）
- 河川・水路景観（ピン川、用水路、運河、橋梁等）
- 歴史的景観（城壁、遺跡、寺院、住宅、店舗等）
- 公共施設景観（公園、公共建築物、教育施設等）
- 町並み景観（民間の建築物、商店街、市場等）

#### ②景観データの収集（データシートへのアウトプット）

約300物件を収集整理しデータ化を行った。

#### ③マップ位置図（2kmメッシュによる115か所の位置図）

土木・都市計画事務所の2kmメッシュ地図を基に、PointAsiaによる最新の航空写真を活用した。



2kmメッシュNo.79



執筆者

上嶋晴久 (うえしま はるひさ)  
1957年 大和高田市本郷町(天神橋筋)生まれ  
1979年 近畿大学理工学部建築学科卒業(成瀬研)  
HULL(ハル)建築設計 主宰  
社団法人奈良まちづくりセンター副理事長  
株式会社 国際開発アソシエイツ(PE)  
奈良まほろば大使

③フィールド調査 (合計6回の現地調査)

カウンターパートのテラユット氏と共にチェンマイ全域を巡り、現状把握を行った。

④景観アンケート調査 (無作為に選んだ100名のデータ)

チェンマイらしい景観、守り伝えたい景観、ドイステープの眺望景観等の意識調査を行った。

⑤県内外の景観保存に関する入手資料

アユタヤ、スコタイ、ラタナコシン、ロップリー、ナーン等の Cultural Heritage Atlas や景観計画等の資料収集。

景観シミュレーターの活用提案

日本の国交省国土技術政策研究所が開発した「まちづくり・コミュニケーション・システム」をカウンターパートへの紹介を行ったが、フリーソフトとしての利点があるものの、外国語版(英語、タイ語)を筆者自身が作成できるスキルを持ち合わせていないため、紹介に留まった。

現在のタイに於ける景観シミュレーション技術は高いものがあり、赴任中の案件で、ワット・サドゥムアング景観計画やワット・ケート町並保存計画ではCGをウォークスルーで作成されており、驚きとともに日本とタイの作成コストの違いによるものと理解した。一般的なCG技術としては Google SketchUp が汎用しており、赴任事務所の臨時職員が簡単に操作して当時の事業案件であったチェンマイ県庁親水公園施設のシミュレーションを作成していた。北タイ様式等の伝統的木造建築の分布等調査

ランナー文化の影響を受けた建築様式の住宅等の下記による、実測、聞き取り、分布、フィールド調査等を行った。

- ①ナイトバザールに隣接する木造民家Aの実測調査
- ②チャルラット通り沿いの木造民家Bの実測調査
- ③K氏住宅(日本人長期滞在者宅)の実測調査
- ④ワットケート住民(オラビモン氏等)への聞き取り調査
- ⑤ターペー通り、ワロロット市場、ワットケート周辺の調査
- ⑥チェンマイ周辺農村の木造民家のフィールド調査

日タイ修好120周年事業「古都奈良とチェンマイの地域交流フォーラム」+「JICA現地研究中間報告会」の開催

2007年は折しも日タイ修好120周年を迎え、タイ各地で記念事業が行われており、本事業も外務省が窓口となった「日タイ修好120周年記念事業実行委員会」より認定と助成を受けて実施した。

(1)開催の経緯

筆者の所属する(社)奈良まちづくりセンターは2003年より、まちづくり民間交流として「チェンマイ都市開発研究財団(UDIF)」と相互に、歴史都市における開発や保存・再生と言う都市化に伴う景観や防災等を、互いの共通問題として学び合い活かし合う活動として交流が進められており、

今回のフォーラム開催により民間 NGO 相互交流のステップアップとして、日タイ修好120周年記念事業と JICA 現地研究中間報告会とを合わせて共同開催することにより、国や地域、団体間の垣根を外し、古都同士の景観や防災等の都市成熟化に伴う諸問題を話し合う機会を通じ、問題意識の共有と発展的な地域交流の好機を提供するものであった。

在チェンマイ日本国領事館とチェンマイ県の後援、チェンマイ土木・都市計画事務所の協力により、横田順子在チェンマイ日本国総領事とトンチャイ・ウォンリアントンチェンマイ県副知事(現在メーホンソン県知事)の出席を戴き、参加者はタイ人69名、日本人43名、その他2名の計114名の出席を得て、アマリリンカムホテル・チェンマイの会場に用意した席は満席になった。フォーラムは下記内容により各パネラーの充実した発表内容と共に活発な議論となり、大成功を納めた。

(2)フォーラムの内容

- ①チェンマイ県の新しい都市総合計画について  
ティアムラット・インシー(チェンマイDPT都市計画担当)
- ②チェンマイの景観データベース構築  
上嶋晴久(JICA SV 景観保存、チェンマイDPT)
- ③奈良橿原市の景観・まちづくり  
米村博昭((社)奈良まちづくりセンター理事)
- ④チェンマイの環境・景観・都市計画  
ドアンチャン・アパワチャルット(UDIF事務局長)
- ⑤テサバン・ナコン・チェンマイの景観提案  
タニット・チュムセン(シアン建築家協会ランナー部会長)
- ⑥日本における防災まちづくりと市民参加  
岩井一郎((社)奈良まちづくりセンター理事)
- ⑦ディスカッション(参加者112名)  
コーディネーター:倉又 孝(JICA SV 都市計画)  
進行役:藤野正文((社)奈良まちづくりセンター副理事長)  
タイ語進行:ナウィット・オンサワンチャイ(チェンマイ大学)



2007年8月25日 フォーラム風景

参考文献

景観保存 JICA SV 現地研究事業企画提案書  
古都奈良とチェンマイの地域交流フォーラム報告書